

ホーム名：グループホームこみち						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者1人1人の生活歴を大切に、少人数の家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活をしていただくことを理念としている。	居間に掲示されている「癒しを大切に」という理念は日々の支援の中に浸透している。また、部屋の隅々にまで癒しの空間が工夫されている。	入居者を支える職員が安心して勤務できる事が入居者の安心、癒しに繋がる事を管理者はよく理解している。そして全ての職員に意識づけていく為にスタッフ会議等で根気よく伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や外気浴の際出会う方々にあいさつを行いまた登下校の子どもたちにも声をかけている。	自治会に加入している。入居者作成の雑巾を毎年地元の寺や保育園で使ってもらったり牛乳パック、ペットボトルの作品を子ども達にプレゼントしたりして喜んでもらっている。	「こみち農園」での野菜作り等を通しての地域の人との交流もあり年々事業所と地域の人々との距離が縮まっているようである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症」を理解していただくため地域、病院、行政と協力して講座開催を行っている。また、地域の保育園と交流を年三回行う。中学生の職業体験を受け入れている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議を行っている。地域の自治会長、地域包括支援センター、家族（または民生委員）、施設長で行っている。（第3木曜日・11時から）	運営推進会議の出席者はそれ程多くはないが自治会長はもと市職員であり地域包括支援センター、家族の参加も見られ、多くの家族の要望や入居者の思いは管理者が常に聞き取り、それを会議に反映するようにしている。	入居者の思いや福祉の現場が抱える問題点、現状を市や地域の人々に知ってもらう場という意味でも、運営推進会議の持つ役割は大きい。月によっては欠席などの理由で参加人数の少なさが感じられる。今後意見交換を通してサービスの向上に繋げるよう更なる会議の充実を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括センターを中心に地域のグループホームの代表者が意見交換会を開いている。また中学生の職業体験を受け入れている。	年2回行われる施設委員会には市町村役所の職員の出席がありその場で意見の交流がある。市への提出物は出来るだけ管理者の手渡しにしてその関係を顔と顔が見える関係にしている。	市からの要望で職員の研修を「こみち」で引き受けている。また中学生の職業体験も毎年おこなっていて福祉に対する中学生の気持ちを育むよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	制度についてはスタッフ会議の中で学ぶ機会を持ち、相談のあった場合は制度について情報提供を行い支援を行っている。また玄関の施錠については利用者の身を守るため行っている。	近隣の環境の変化等の影響もあり玄関は施錠するようになった。スタッフ会議においてケアマネジャーが中心になり拘束、虐待についても勉強会を行っている。どうしても他に方法がないと考えられる場合はその理由と期間を確認し家族に同意を得た上で行うようにしている。	認知症により表情が乏しくなったとしても、またその行動に変化が見られても、感情の豊かさは変わらない事を職員はよく理解しているので常に入居者の気持ちを思い図るようにして支援している。それが「介護者側の都合の拘束をしないケア」に繋がっている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念において虐待はあってはならないことであり、理念に基づいた支援を目指し知識を学ぶ学習会を行う。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>知識を学ぶ学習会を行い資料を地域包括センター、市役所等に行き集め、学習を行う。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書に基づいて説明を行い、質問、要望などに応えている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族と密に連絡を行い意見を言っていたり、その意見を全体に反映している。また個別に面談を行い意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>意見箱の設置はあるが意見、苦情等入ったことはない。家族の面会時には管理者、ケアマネージャーが個別面談をし、日頃の様子や入居者、家族が抱える問題についてしっかり話をするようにしている。</p>	<p>共用空間には毎月の行事の写真、入居者と職員が作成した貼り絵などが飾られていて、家族に日頃の入居者の表情や様子がわかるように気を配っている。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>それぞれの職員が各々担当を持っている。業務の中での意見や提案を月一回のスタッフ会議を行い聞く機会を設けている。</p>	<p>管理者やケアマネージャーや主任と他の職員との間で意思の疎通が出来ている。定年制は取らず、希望があればいつまでも出来る範囲の仕事をしてもらうことでお互いに良い関係を持ち続けている。</p>	<p>月1回のスタッフ会議、サービス担当者会議は内容も充実しており若い職員の意見も充分吸い上げられる場になっている。管理者は職員一人一人の性格や環境や得意なことを把握して出来ただけ無理のないシフトを組んだり得意な事を仕事に生かしてもらえるよう考えている。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>離職者を減らすためシフトに無理のないよう意見を反映している。また処遇改善費を活用し給料に反映している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の得意、不得意を明確にして外部からの講師を招いての課題別研修または個別に研修を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>施設連絡会や近隣のグループホームと交流を行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族から入所の相談を受けた場合、可能な限り本人様同行の見学を勧めている。また、自宅に本人を訪ねて安心感、信頼関係を築き、コミュニケーションを図っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>電話、訪問による相談は随時対応しています。内容によっては調べ、後日連絡するようにしできるだけ支援をしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>緊急性が高いと思われる方、経済的な面等により、状況を判断し地域包括センターや役所と連携しながら情報提供を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒にすごせることの喜びを意図的に伝え感謝したり、互いの身の上話をしたり、共感しあえるよう仲介をしながら努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>施設での生活または行事等をこまめに伝え、家族に参加を呼び掛け、職員と一緒にご本人を支えている関係を築いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族や知人との面会、外出は無理のないよう薦めている。</p>	<p>何名かの入居者は家族が外食や馴染みの美容院などに連れて行くことがある。入居者の希望を日々の会話の中から聞き出すようにし、家族がしてあげたいと思う気持ちも充分考慮している。</p>	<p>入居者それぞれの今の希望を汲みとって家族と協力しながら支援に結びつけていくよう今後も期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員の仲立ちのもと普段関わりのない利用者や新規入居者がスムーズにコミュニケーションが取れるような支援に努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も家族の相談に応じたり本人を見舞い、面会を行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人の思いを聞き、その人らしい生活を過ごせるように個別支援に努める。	一人一人の職員が入居者と関わる中で得た情報をチームケアにしつかり生かせるよう個人記録への正確な記録、申し送りや会議での意見交換を大切にしている。	居間でお会いした入居者の皆さんの様子からそれぞれの方が安心して穏やかに生活されている事が伝わってきた。認知症に対する不安はあっても自分を尊重してくれる環境は嬉しく感じておられるものと推察する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人から得られた情報、家族からも情報をいただき、ケアプランで今までの暮らしを反映できるようなプランを検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩、家事などの日課を作りその関わる姿勢を見てまた職員間で情報を共有し状況把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、計画作成担当者を中心にご家族とのカンファレンスを行いスタッフ会議でサービス担当者会議に反映し互いに意見を出し合い介護計画書を作成している。	サービス計画はスタッフ会議、担当者会議で話し合い家族の確認を得て作成している。本人が中心ではあるが家族の思いとの間にズレが生じる事もあり、真の意味での本人の安心、幸せのために家族を含めた環境を支えるよう支援し努力している。	管理者、ケアマネージャーがこれまでに積み重ねてきた介護に対する経験と知識、そこから生まれた信念や知恵をスタッフ会議の後で開かれる勉強会で職員にどんどん伝えて行って現状の温かい支援、その基となるサービス計画の充実を継続されていかれることを今後も期待している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは個人記録に記入し、申し送りを行い共有できるように記録と申し送りの重要性を再確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	書類等の申請、更新の代行を行っている。重度化に伴い看取りの対応も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを依頼している。地域の催し物には積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師に利用者の状態を伝えるためノートを作成している。	提携医療機関である向山病院の往診は月2回で、その他さくらクリニックの往診が月1回、妹尾医院にはインフルエンザの予防接種をお願いしている。看護師は週1回出勤し、バイタルチェックや爪切り、医師の指示の下、皮膚疾患の処置等に携わっている。	歯科の診療は、オーシン訪問歯科支援センターの往診を適宜受けている。歯は健康の源であるので、今後も適切な医療を受けられるように支援願いたい。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週1日の看護師出勤日にそれぞれ利用者様の状態を伝え、漏れの無いよう連絡ノートを活用している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療連携医の月2回の訪問診療を実施し普段から利用者のことを把握してもらっている。また入院された場合ケアマネと管理者で週2・3回見舞い様子を窺いに行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族・主治医と話し合いを持ち、その都度職員全員で話し合い方針を共有している。</p>	<p>入居者の心身の情報記録である「私の気持ちシート」を作成しており、本人や家族の意思を聞き取って「ターミナルの要望・医療への願い」を記録している。家族のいない方や成年後見人が付いている方には、日頃から本人の思いを良く聞いて、主治医や後見人に伝えるようにしている。終末期には、家族がホームに泊まり込んで共に看取することも出来る。</p>	<p>これまでに多数の入居者を看取っている。ぎりぎりまでホームで介助した後病院に搬送するケースや、最後までホームで看取り家族葬をする等、本人や家族の想いに副った支援が出来ている。特に身寄りのない入居者にとっては、心安らかに過ごせる終の棲家となっている。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署等と連携し避難訓練、心肺蘇生法などの研修を定期的に行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>会議の際話し合い勉強会を持っている。また、消防署と連携し定期的に訓練を行ったり地域の訓練に参加している。</p>	<p>年2回の訓練の内1回は、2月に消防署と連携して初期消火と入居者救出訓練を行った。職員が入居者役になり、物陰に身を潜めて救出を待つという現実的な訓練である。自主訓練は避難通路に物品を置いてないか、コンセントの埃や、備蓄品の点検等を12月以降に行う予定である。</p>	<p>入居者の居室のネームプレートにはオレンジリボンが掛けてある。救出した入居者の居室のリボンを外していけば、救出するのはリボンの残っている部屋の人だということが一目で分かる。災害時に「入居者全員の命を護る」という管理者の決意が伝わってくる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者全員が人生の大先輩ということを忘れず普段から接するようにしている。</p>	<p>年数を経るに従い、入居者の認知症が重度化してきており、意思表示できない人の人権尊重とプライバシーの保護に重点を置いた支援に取り組んでいる。</p>	<p>不用意な言葉等、不適切な対応を見かけた時は、その場で指導している。これからも入居者が嫌な思いをしないケアを目指して欲しい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人への伝え方も家族様に確認して、納得してもらえる内容を選んでいる。不安な心情を理解し、家族とともに密な交流に努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>それぞれの意見を聞き意欲を引き出し、出された希望に職員は柔軟な対応に努めている。本人の持っている力に支援を行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>外出時には衣類を選別し、普段でも整容整髪等習慣にしている。月一回訪問美容を行っている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好みを把握して食べ物にも配慮を行い、配膳、茶碗洗いお米ときなども一緒に行っている。下肢の自由が利く方には下膳もお願いしている。</p>	<p>週3回は業者からレシピ付き食材を購入し、週4回はホームで皆の希望や、その日の食材を見て決めている。又、管理者が調理師であり、その専門性を活かした食事を提供している。基本は出汁をしっかり取る事と、色彩や見た目を綺麗に盛り付け、季節感を大切にしている。</p>	<p>塩分濃度計を使用して、誰が調理しても同じ味付けが出来るように工夫している。ホームの畑で立派に育っている蕪や茄子等も活用して、楽しい食事を提供し続けていきたい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>普段の会話の中から本人の好みを聞きその時に合ったバランスを考えたメニュー作りに努めている。また、その人に合った調理方法で提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行い、一日一回は義歯をポリドントにて消毒を行う。必要な方は訪問歯科との連携を図る。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>定期的に排泄の声かけを行いお一人お一人のリズムをつかむ。オムツの使用はプライドや自責の念に配慮しながら気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>定期的に声掛けする他、尿意のある人は訴えがあれば随時に誘導している。「下の介護をさせて済まない」というような自責の念を抱かせないように、配慮して介助をしている。便秘対策としては、リンゴやひじき、根菜など食物繊維の摂取に努めている。</p>	<p>健康管理表に排泄の状態が記録しており、各人の排泄リズムを把握して声掛け誘導している。排泄の自立は自尊心の回復にも繋がるので、今後もおむつの使用を出来るだけ遅らせたり、減らすような取り組みを願いたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表を作り個人の排泄、排便を記録し把握する。食事やおやつ素材にも配慮する 薬に頼らず運動やマッサージによる誘導にも努める。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴利用者には入浴したいと思えるようにそれぞれ効果的な理由付けの声かけをしている。入浴日以外は陰部洗浄し冬は足浴、夏は夕陽浴をしている。</p>	<p>入浴は週3回で月・水・金曜日の1時半から3時或いは4時位までとしている。湯替えは3人に1回行い、その間職員も休憩を取る。入浴日以外はペットボトルを利用した簡易シャワーで陰部洗浄や足浴をしている。</p>	<p>菖蒲湯や柚子湯等の季節のお風呂や、入浴剤を利用して各地の名湯に例えて、入浴したいと思えるような声掛けをしている。各人の希望に応じたタイミングで、入浴が出来るような支援に期待している。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>お一人お一人の顔色や表情を観察し、声かけして安心して休息できる環境作りをしている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>調剤薬局からの処方箋を基に把握する。また個人記録に様子や変化の観察を行い記入し把握する。医師の指示をうけながら下剤などの調節を行う。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の自発的な役割分担を促しながら役割をもつことで張り合いのある日々を過ごせるように支援している。自分のことは自分でしていただくことを基本として見守り、援助している。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天気をみながら一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるように支援している。買い物に行き本人の希望する物を選んでもらう。</p>	<p>ホーム近辺の散歩や、買い物に出かけている。又ホームの畑に出かけてベンチやゴザの上で見学したり、芋掘りや草抜きをして楽しんでいる。精神通院医療を利用して週に1～2回、両ユニットで6名位の人が桜クリニックのデイケアに参加している。</p>	<p>紅葉の美しい季節でもあるので、出来るだけ戸外に出かけ入居者が解放感や、季節感を満喫できるように支援して頂きたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は行っていない。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個々の能力に応じて発信している。暑中見舞い、年賀状の発送も行っている。電話の取り次ぎも希望により行っている。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有部分は季節ごとにいすカバー等を衣替えする。庭には季節の花を利用者と植え配置する。また、壁面には毎月季節のものを飾るよう工夫する。室内浴の際も暑すぎることのないよう日除けやブラインドを活用している。</p>	<p>吹き抜け構造の天窓と、坪庭からの自然光により、居間は大変明るく広々としており、正に「癒しを大切に」した理念通りの空間となっている。空気清浄機能付加湿器が設置され、冬場は天窓を開閉して日に2回換気を行っている。坪庭の窓際にソファが設置されており、信楽焼の置物や南天等の植栽、建仁寺垣を眺めつつ室内浴を楽しむことが出来るようになっている。</p>	<p>玄関にはゴールドクレストの植栽があり、クリスマスには「こみちルミナリエ」が完成して煌めき始めるとの事である。食卓の椅子の背当ての部分には布テープをつけて、入居者各自のタオルを掛けており、他人のタオルと混同することなく、常に自分の物を使用できる工夫が見える。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>定期的に席替えを行うまた日光浴しながら利用者同士が自由に過ごせる環境作りにも努めている。</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとの衣類の入れ替え、ご本人が作成されたものや家具等持ち込んでもらい居心地よく過ごせるような工夫をしている。毎月自分でカレンダーを作成している。</p>	<p>室内は電動ベッドとクローゼット、着替えを入れる棚、作品などを飾る掲示板、ナースコール、煙感知器、スプリンクラーが設置されている。手作りの塗り絵カレンダーや、時計、大切な家族の写真、テレビ等を置いて自分らしく落ち着ける部屋にしている。</p>	<p>入居者が自らナースコールを押すことは無く、2人介助の必要性等で職員が使用することがある。シーツ交換は月2回、清掃は毎日の雑巾がけの他、週4回のモップかけ等を行っている。これからも清潔で居心地良く過ごせる環境の維持に努めて頂きたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>洗濯干したたみ、食器洗いやご自分の居室の掃除等家事をできるだけ職員の見守りのもと行う。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない